

海外研修報告書 7月

循環農学類

喜多遼太郎

5、6、7月は144年に一度の干ばつや気温上昇、特に5月は1000年に一度と言われるほどの異常気象がデンマーク、ヨーロッパ農業を苦しめています。

先日、麦の収穫中に、コンバインハーベスタに石が当たり発生した火花で畑が燃え、鎮火に向かった消防士の中の1名が火災に巻き込まれ亡くなるという悲しい事故がありました。他の研修生配属先国（オランダ、ドイツ、スイス）でも、干ばつによる火事が起きているという話を聞きます。

不作が大きな問題となっているデンマーク酪農ですが、牧場主曰く、もうすでに数件の酪農家が餌不足で離農をしているそうです。（昨年は雨ばかりで例年以下の収量しかなかったという話を聞いています。）また、今年は世界的に不作なようで、飼料価格も日々高騰しています。今年はデンマーク、ヨーロッパの酪農家にとっては厳しい年となっています。



そんな異常気象にも負けず、酪農に向き合う今日で、研修期間も4か月が過ぎました。仕事はもう基本的に大きな変化はありません。しかし、牛の状態、体調、牧場の変化に気づくことができる観察力が少しずつではありますが身についてきました。毎日同じ作業を繰り返すからこそ、日々の変化を感じることが出来るようになることはすごく重要だと思います。昨日大丈夫だったから今日大丈夫だという保証はどこにもありませんし、そういう所を疎かにするから問題が起きるのだと思います。

この観察力は日々の意識で少しずつ身についていくものなので高い意識をもってこれからも作業に向き合っていきます。

今月はデンマークの共進会の話をしたと思います。デンマークの共進会は本当にたくさんの方が来ます。特に子供連れの家族をよく見かけます。デンマークの方に何うと、10年前は10倍の規模だったという話も聞きましたが、僕にとっては大きな会場に沢山の人が来場しているように感じました。デンマークの共進会は、牛や馬、鶏だけではなく、猫やウサギなどのコンテストもやっており、集客を試みています。多くの町に住む人が動物、家畜に触れあえる場となっており、すごくいいなと思いました。また、トラクターやたくさんの農業関係企業のブースが存在したり、ファームショップの出店や、フリーマーケットがあったりなど、共進会というよりは、お祭りのようなムードがある面白い祭典でした。



最後に、海外農業研修を始めて4カ月が経ち、大学では前期期末試験期間に入り、前期が終わろうとしています。まだまだ先は長いですが、流れるように時間が過ぎていく感覚に陥ることがあります。人生でも貴重な時間を今過ごしていることを再認識し、残りの研修期間を最高のものにしていきます！